

# ふくしま

# 再生 短信

2021/11/13-14 栃木県立大田原高等学校飯館村研修同行記

## 村で学ぶ&村に学ぶ

### 栃

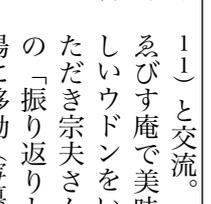
木県立大田原  
高等学校の2  
021年度飯  
館村研修は十一月  
十三日、十四日の  
両日ぬける快晴の  
下で行われた(写真  
1、研修終え酒米田圃  
で)。引率は植木淳  
校長、加藤信行教  
諭、藤原和人教諭。



十三日午後一時、飯館  
村佐須滑のふくしま再生  
の会事務所前で開会式。  
今回はスパーサイエン  
ス部の高校生十一名のほ  
か、研修補助  
も兼ね東大生  
四名も参加。  
研修三年目に  
あたり大田原高校からこ  
れまで研修を支えてきた  
菅野宗夫さんら村のみな  
さん、田尾陽一さんら再  
生の会のメンバーに感謝  
状が贈られた。誠に名譽  
であり有難いことである  
(写真2)。



大根掘りの  
後、三班に分か  
れ、(1)〜(3)に各  
班交代で取組  
む。(1)再生の  
会・小原壮  
二さんの指導で作  
物の放射能測定  
(写真4)、(2)大田  
原高校の先輩・東  
大大学院農学  
生命科学研  
究科教授・溝口  
勝さんの指導  
で埋設土壌の  
放射能測定  
(写真5)、(3)再生の会・  
佐野隆章さんの指導で森  
の中の最大放射線探索  
ゲーム(写真6)。



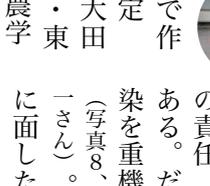
三種の測定研修の後、  
田尾さんの案内で炭焼き  
窯予定地と風と土の家を  
見学、全員元気いっぱい  
川俣町の宿舎「小島ふる  
さと交流館」に移動。夕  
食後「ドロえもん放射線  
クイズ大会」へ。同宿の  
大学生チームを  
圧倒、高校生が  
優勝し原作者の  
溝口教授の祝福  
を受ける(写真7)。



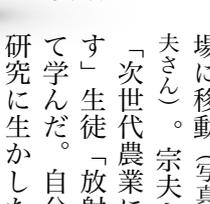
二日目朝八  
時出発、帰還  
困難地区を隔  
てる長泥ゲー  
ム(写真9)。



トの説明を受け  
る。続いて菅野  
啓一農園へ。啓  
一さん「天明の  
飢饉を生き延びた先祖へ  
の責任、子孫への責任も  
ある。だから居久根の除  
染を重機で自力で実施」  
(写真8、居久根前、円内が啓  
一さん)。福島第一原発側  
に面した森で最大放射線  
探索ゲームを展開。  
山田牧場内の松塚土壌  
博物館(写真9)見学後、  
「新農家」挑戦中の山田  
豊牧場へ、幼い子牛2頭  
が人気者に(写真10、円内  
豊さん)。コメリ跡地で最  
先端の田舎の創造に取り  
組む若き移住者、合同会  
社MARBLING(マープリン  
グ)CEO松本  
奈々さんと松尾  
洋輝さん(写真  
11)と交流。  
「次世代農業に挑戦中  
です」生徒「放射線につい  
て学んだ。自分も関わる  
研究に生かしたい」生徒  
「地域の内部から学べ  
た」生徒「これまで知ら  
なかったことを学んだ」  
生徒「昨年も参加、活躍  
する若者が増えた、長泥  
ゲートを始め今年飯館  
村についての研究をま  
めたい」生徒「シイタケ  
はどうなのか？」溝口さ  
ん「まだまだ調べる必要  
あり」宗夫さん「若い人  
から元気をいただいでい  
る」大学生「将来は？」  
宗夫さん「日本の未来が  
ここにある」田尾さん  
「事実を元に考えて、思  
考停止しないで」。



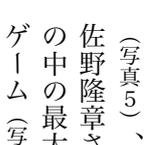
目、この経験  
は将来に必ず  
繋がると思い  
二日間の学び  
を忘れない  
で」。



(文責&撮影・  
若林一平)



最初の取  
組は菅野永  
徳農園の大  
根掘り、持  
参した野菜も含  
む放射能測定用  
である。手ほごきは無論  
永徳さん(写真3、円内は永  
徳さん)。



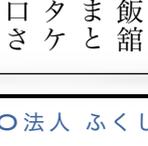
二日目朝八  
時出発、帰還  
困難地区を隔  
てる長泥ゲー  
ム(写真9)。



トの説明を受け  
る。続いて菅野  
啓一農園へ。啓  
一さん「天明の  
飢饉を生き延びた先祖へ  
の責任、子孫への責任も  
ある。だから居久根の除  
染を重機で自力で実施」  
(写真8、居久根前、円内が啓  
一さん)。福島第一原発側  
に面した森で最大放射線  
探索ゲームを展開。  
山田牧場内の松塚土壌  
博物館(写真9)見学後、  
「新農家」挑戦中の山田  
豊牧場へ、幼い子牛2頭  
が人気者に(写真10、円内  
豊さん)。コメリ跡地で最  
先端の田舎の創造に取り  
組む若き移住者、合同会  
社MARBLING(マープリン  
グ)CEO松本  
奈々さんと松尾  
洋輝さん(写真  
11)と交流。  
「次世代農業に挑戦中  
です」生徒「放射線につい  
て学んだ。自分も関わる  
研究に生かしたい」生徒  
「地域の内部から学べ  
た」生徒「これまで知ら  
なかったことを学んだ」  
生徒「昨年も参加、活躍  
する若者が増えた、長泥  
ゲートを始め今年飯館  
村についての研究をま  
めたい」生徒「シイタケ  
はどうなのか？」溝口さ  
ん「まだまだ調べる必要  
あり」宗夫さん「若い人  
から元気をいただいでい  
る」大学生「将来は？」  
宗夫さん「日本の未来が  
ここにある」田尾さん  
「事実を元に考えて、思  
考停止しないで」。



目、この経験  
は将来に必ず  
繋がると思い  
二日間の学び  
を忘れない  
で」。



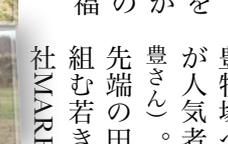
(文責&撮影・  
若林一平)



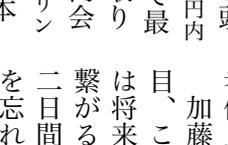
最初の取  
組は菅野永  
徳農園の大  
根掘り、持  
参した野菜も含  
む放射能測定用  
である。手ほごきは無論  
永徳さん(写真3、円内は永  
徳さん)。



三種の測定研修の後、  
田尾さんの案内で炭焼き  
窯予定地と風と土の家を  
見学、全員元気いっぱい  
川俣町の宿舎「小島ふる  
さと交流館」に移動。夕  
食後「ドロえもん放射線  
クイズ大会」へ。同宿の  
大学生チームを  
圧倒、高校生が  
優勝し原作者の  
溝口教授の祝福  
を受ける(写真7)。



二日目朝八  
時出発、帰還  
困難地区を隔  
てる長泥ゲー  
ム(写真9)。



トの説明を受け  
る。続いて菅野  
啓一農園へ。啓  
一さん「天明の  
飢饉を生き延びた先祖へ  
の責任、子孫への責任も  
ある。だから居久根の除  
染を重機で自力で実施」  
(写真8、居久根前、円内が啓  
一さん)。福島第一原発側  
に面した森で最大放射線  
探索ゲームを展開。  
山田牧場内の松塚土壌  
博物館(写真9)見学後、  
「新農家」挑戦中の山田  
豊牧場へ、幼い子牛2頭  
が人気者に(写真10、円内  
豊さん)。コメリ跡地で最  
先端の田舎の創造に取り  
組む若き移住者、合同会  
社MARBLING(マープリン  
グ)CEO松本  
奈々さんと松尾  
洋輝さん(写真  
11)と交流。  
「次世代農業に挑戦中  
です」生徒「放射線につい  
て学んだ。自分も関わる  
研究に生かしたい」生徒  
「地域の内部から学べ  
た」生徒「これまで知ら  
なかったことを学んだ」  
生徒「昨年も参加、活躍  
する若者が増えた、長泥  
ゲートを始め今年飯館  
村についての研究をま  
めたい」生徒「シイタケ  
はどうなのか？」溝口さ  
ん「まだまだ調べる必要  
あり」宗夫さん「若い人  
から元気をいただいでい  
る」大学生「将来は？」  
宗夫さん「日本の未来が  
ここにある」田尾さん  
「事実を元に考えて、思  
考停止しないで」。



目、この経験  
は将来に必ず  
繋がると思い  
二日間の学び  
を忘れない  
で」。